

11月から、東京都心身障害者福祉センター(都身障)のご協力をいただき、TKK主催の「家族相談交流会」を毎月、都身障で開催する予定で企画を進めています。

==== 2009. 9. 23
NPO法人東京高次脳機能障害協議会 <http://www.brain-tkk.com/>
T | K | K | メ | ル | マ | ガ | vol.11

一 江東区で活動されている「猫のひげ」が加盟しました

～目次～

1. TKK活動
2. 関連団体の活動
3. 行政等の活動
4. メディアでの報道
5. TKK役員より

【1】TKK活動

**

●2006年4月に設立され、江東区を中心に活動されている「猫のひげ(江東区・高次脳機能障害者と家族の会)」が8月に加盟され、加盟団体は13になりました。

=== 「2009年7月7日に事務所を構え、運営していく運びとなりました。人生の途中で、突然降ってわいた障がいを持つことになった当事者、家族のQOLを高めることを目指して、支援していきたいと考えています。「猫のひげ」の名前は薬草名が由来で、その形が脳の神経細胞が伸びていく様子に似ているので付けたものです。花言葉(?)は、愛のむちです。
===== (副代表 山本洋子)

週3回、午後にパソコン、脳トレ、朗読会等のプログラムを行い、また月1回定例会を開き、活発な活動をされている団体です。

●運営委員会等

- ・7月15日 VIVID事務所
9月27日開催のボランティア(支援者)養成講座—4(成年後見制度)の企画
- ・8月7日 損保ジャパン会議室
ピアカウンセリング活動の為の研修

●都への「予算要望書」提出、政党ヒアリングへの対応

- ・8月7日 都へ「予算要望書」提出：都庁
 - ・9月2日AM, 公明党ヒアリング：都議会議事堂内会議室
 - ・9月4日AM, 民主党ヒアリング、PM, 共産党ヒアリング：都議会議事堂内会議室
- 「予算要望書」提出および各政党ヒアリングの報告は、次でご覧下さい。

http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=35

○ボランティア(支援者)養成講座—4 「成年後見制度を使いこなそう」

9月27日(日)、日本青年館

http://www.brain-tkk.com/index/show_information.php?boardAct=view&readNum=34

○家族相談交流会 於：都身障 後援：都身障(予定)

TKK相談支援事業の一環、(財)日本財団の助成事業

11月4日午後(予定)より月1回、来年3月まで毎月開催の予定です。

高次脳機能障害に関して当事者・家族が持つ不安を少しでも和らげ解消するために、TKK相談員による交流相談会を実施いたします。

内容の詳細が決まり次第、改めてご案内いたします。

【2】関連団体等の活動

●小児高次脳機能障害支援セミナー、9月12日午後、めぐろパーシモンホール

主催：千葉リハ・センター、後援：東京都心身障害者福祉センター、TKK他

プログラム：家族の思いを伝える 中村千穂(ハイリハキッズ)

小児の診断について 荏原実千代(千葉リハ)

小児支援の実際～福祉と教育機関の連携 内田由貴子(コロポックル)

小児の復学支援～医療と教育の連携 廣瀬綾奈(千葉リハ)

小児支援の初めの一歩～沖縄からの報告 波平智雄(沖縄平安病院)

小児支援の提案を受けて 高城 亮(厚生労働省 社会・援護局)

司会 中島八十一(国立リハ)

=== 各テーマに添ってのパネラリストによるプレゼンテーションは、各々が素晴らしく、大変勉強になりましたが、中でも、NPO法人コロポックルさっぽろの内田氏の発表は印象深いものでした。

一つの脳外傷家族会として発足して相談支援をしながら、作業所を運営し、厚労省モデル事業に参加。北海道高次脳機能障害支援事業を受託するなど、その活動にはめざましいものがあります。最近では、子供の当事者の相談のみならず実際的な支援を手がけ、家族、医療、福祉と共に教育機関や教育行政と密接な連携の元、立派な実績を上げていることに感銘した次第です。

===== 細見(み)

●「言語聴覚の日」講演会、9月13日(日)、笹川記念会館

主催：日本言語聴覚士協会、後援：東京言語聴覚士会

プログラム：

講演：「喉頭全摘手術後に気管～食道シャント術を受けて」

『一私の無喉頭発声体験一』

講師：赤木家康先生(永生病院副院長)

特別講演：「生きる力を支える」

『一地域リハビリテーションの実践一』

講師：斉藤正身先生(真正会理事長、霞ヶ関南病院院長)

展示会：機器・嚙下食品・教材、TKK及び加盟団体の活動に関する展示
相談会：言語聴覚・嚙下障害相談、進路相談

=== 東京言語聴覚士会さんからお声をかけていただいて、「言語聴覚の日」講演会の展示に於いて参加させていただきました。お蔭様でご参加の方々に、TKKの活動や取り組み及び加盟13団体をパネル展示やリーフレットで紹介、また報告書の販売をさせていただきました。

この展示会にお招きいただきましたことを、東京言語聴覚士会の会長 半田理恵子様、副会長 西脇恵子様に心より感謝申し上げます。 ===== 細見（み）

○サークルエコ合宿 10月17日（土）、「富士吉田青年の家」（習志野市立）

- ・講座：ふらっと施設長 和田敏子氏
- ・おおいに語ろう会：コーディネーター 赤塚光子氏
- ・問い合わせ&申込：Ka6wi2@bma.biglobe.ne.jp

○高次脳機能障害者と家族の会 10月交流会 10月18日（日）10～15時
「浅草から水上バスで浜離宮恩賜庭園に行きましょう！」

- ・問い合わせ&申込：kazokukai_koujinou_new@yahoo.co.jp

【3】行政等の活動

●区東部・区東北部合同高次脳機能障害者支援地域ネットワーク連絡会

9月8日夜、北千住駅西口前 シアター1010

TKK参加者：山寄、田代、山本、太田、細見（み）、細見（好）

議題： 医療サイドからの支援の拡がり、在宅生活を進めるための取り組み

=== 江東区の寿康病院リハ科のST川田氏による高次脳機能障害への取り組みについての発表があった。次いで、各医療機関・各自治体から在宅生活を進めるための取り組みについての報告があり、TKK参加者も各々の会の活動について述べた。

その後、各出席者からの質疑・応答がおこなわれたが、足立区福祉部の二見氏が「高次脳機能障害は精神科だけでなく脳神経外科・神経内科・リハビリ科など総合的な医療面での支援がとても必要な障害であるから、しっかりした医療とのネットワーク構築と行政のバックアップが必要」等々、この障害を理解して述べてくれたことに感謝し、この地区の福祉に心強い思いを感じた。

しかし、この地域のネットワーク連絡会では、1回目の時と同様に、医師がほとんど出席していないのには驚く。総合的な医療面での支援が必要な障害であると言われているにもかかわらず。非常に残念である。 ===== 細見（み）

○葛飾区高次脳機能障害講演会 10月10日（土）13:30～15:30 ウェルピアかつしか

「高次脳機能障害の認知リハ」臨床心理士 本木下道子氏

問い合わせ、申し込み先：葛飾区地域活動支援センター（ウェルピアかつしか3階）

<http://www.city.katsushika.lg.jp/oshirase/179/017933.html>

- 豊島区高次脳機能障害支援者セミナー「高次脳機能障害のある方との接し方」
10月23日（金）14時～16時、於：豊島区立心身障害者福祉センター
対象：家族・関係者、高次脳機能障害者を支援している・今後予定のある方。
TKK関係の2家族が参加し、家族・当事者として発表いたします。

【4】メディアでの報道

∞ **

∞

- 「女性自身」9月10日発売号、「シリーズ人間」のコーナー
「脳が半分消えた・・・でも家族みんなで奇跡を！」の表題で、7ページに渡って掲載。
高次脳機能障害の解説とともに、ハイリハ東京の関根里絵さん、高次脳機能障害者と家族の会の渡辺秀紀さんが写真入りで紹介されました。
- 読売新聞9月16日朝刊くらし面、連載「医療ルネッサンス 脳卒中 自立へのリハビリ」、「同じ障害 集まり交流」の見出しで、調布ドリームでリハビリに励む、介護福祉士だった恵さんの発症からリハビリの様子が紹介されました。
調布ドリームの設立経緯、リハ・プログラム、そしてTKK概要も掲載されました。

【5】TKK役員より

∞ **

∞

東京高次脳機能障害協議会のボランティア活動から見える世の中

理事 細見 好昭

私が当会に入会してから、4年があつと言う間に過ぎました。当協議会がNPO法人となり、新人の理事として勤めさせて頂いてから、年度として3年目が経過しようとしています。その間の各役員や会員、当事者の皆さん方より良い方向を求めてのご努力には、目を見張るものがあります。やはり家族や活動に理解の深い方々の力は、大きいと思います。又、各団体さんの力も大きいと思います。

しかし、ここで考えねばならない事は、私たちに残された時間と国、自治体そして社会との関わり方です。当事者は、自分で自分の事を発信出来ない、または十分に出来ないと言う点です。ですから当事者に代わり私たちが、今発信している訳で、こうした観点から当会の重要な活動としています提言活動の効率化と有効化を如何に促進するかが大事に成って来るわけです。

今後について

- 1、お願い先については、途中であつても途中経過を聞く事が必要
- 2、簡単に良い回答が出なくても諦めない、つまりは、言い続ける事が大事
例えば、都身障の建替えと拡大、拡充、高度先進化、等々
- 3、加入団体数の拡大の急速化と会員数の拡大
- 4、脳損傷関係団体との連携強化策の促進
- 5、世の中の理解を深めて頂く為、各種シンポジウムの更なる開催とマスコミ対策
- 6、国、自治体との連携強化と各政党との接触の強化
- 7、その他

上記の実行こそが必要かと思っています。

以上